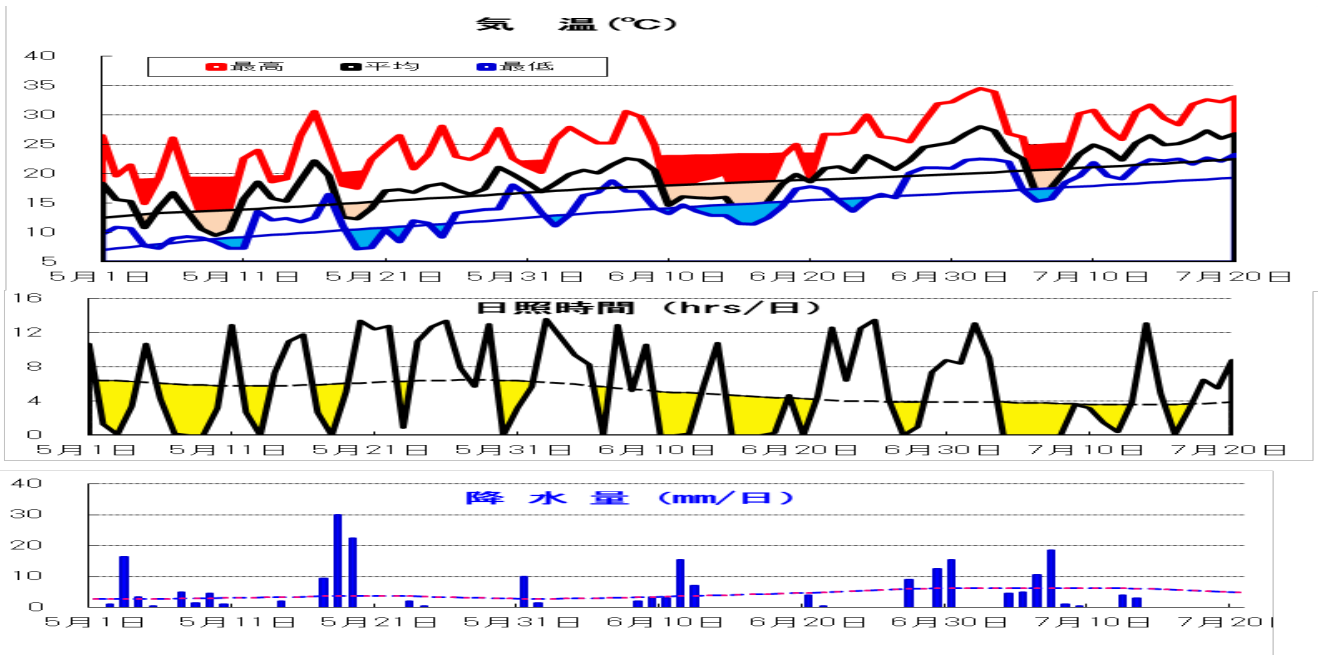


～高気圧による高温傾向で、生育に合わせた適期管理を！！～

## 1 気象経過（古川・田植後）



- ・7月初めは一時期低温だったものの、その後は大陸、海からの高気圧により、かなり高温傾向が続いている。
- ・日照時間は、断続的に変化しているが、7月上旬を除きこれまで多照傾向である。
- ・降水量は7月に入ってから、上旬を除き、かなり少雨傾向が続いている。

◆県内の主要ダム17ヶ所の平均貯水率は55.3%（7月17日調査）で、平年比は91.1%でダムの総貯水量は、平年並である。

◆県内のため池は約6,000ヶ所で総貯水量は約4,100万立方メートルで、主要なため池7ヶ所の平均貯水率は60.3%（前回7月2日調査：61.6%），前年比102.0%である。

## 2 生育状況

〔7月10日現在〕

- ・水稻の生育は概ね平年並みで、草丈は63.1cm(平年比104%)，1㎡当たり茎数は540本(平年比96%)，葉数は10.9枚(平年比+0.0)，葉色はGM値が40.5(平年差+2.3)となっている。
- ・幼穂長は1.4mm(平年差-1.4mm)で、幼穂形成始期は7月9～10日頃であった。北部平坦地帯における「ひとめぼれ」の出穂期は、ほぼ平年並みの8月4～5日頃になる見込みである。

県全体	草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
	63.1	109	104	540	93	96	10.9	0.1	0.0	40.5	0.4	2.3	1.4	▲0.2	▲1.4

[7月20日現在]

- ・平坦部では減数分裂期に達している圃場が多く、生育調査圃の幼穂長は58.0mmで、北部平坦地帯の「ひとめぼれ」の出穂期は、平年より2日早い8月2日頃（平年8月4日）になる見込みである。
- ・草丈が76.0cm(平年比107%)、m<sup>2</sup>当莖数が495本(平年比94%)、葉数が12.1枚(平年差+0.1枚)、葉色を示すGM値が35.1(平年差+0.5)となっており、概ね順調な生育となっている。

県全体	草 丈			莖 数			葉 数			葉 色			幼穂長 本 年 (mm)
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	
	76.0	107	107	495	93	94	12.1	▲0.0	0.1	35.1	1.2	0.5	

### 3 今後の管理

#### (1) いもち病の防除

- ・7月20日の予察情報では葉いもち穂いもちとも平年並みと予想しているが、天候の変化により急増する可能性があるので、圃場を見回り発生に注意する。
- ・感染好適日が連続して広域で出現すると約1週間後に発病することが多い。
- ・穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適切に防除する。

病害虫名	発生時期	発生量
葉いもち	—	平年並

病害虫名	発生時期 (発生初期)	発生量
穂いもち	平年並 (8月第3半旬:8/11~8/15)	平年並

【いもちの発病：平均気温が20~25℃、曇りや雨の日が多いことが好適】

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 平成30年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	亘理	丸森	
7/7	—	—	—	—	—	△	—	●	●	△	●	—	●	●	●	●	—	△	●	●	●	●	●
7/8	○	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
7/9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△	—	—	—	—	●	—	△	●	—	—	●	●	●
7/10	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/13	●	●	●	●	—	—	●	●	●	●	●	●	—	△	●	△	●	●	●	●	●	●	●

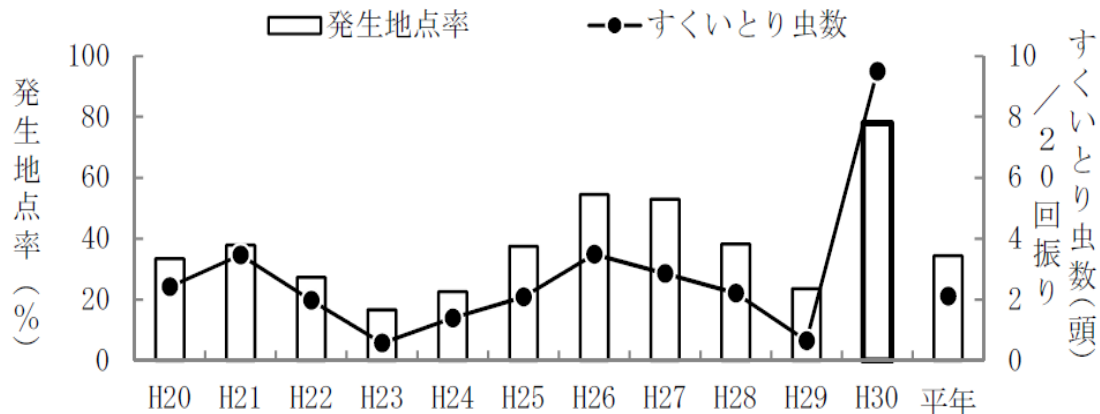
●感染好適条件 ○準感染好適条件

#### (2) 害虫の発生予察

- ・斑点米カメムシ類の重要な増殖源（畦畔，農道，雑草地等のイネ科雑草）
- ・出穂近くに草を刈ると水田に追い込むこととなるので出穂10日前まで除草作業を終える。
- ・コバネイナゴ発生地点率は78.0%で平年(34.4%)より高く、発生数も多かった。

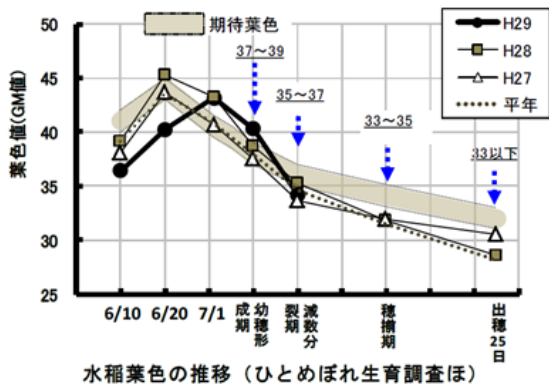
病害虫名	発生時期 (水田侵入始期)	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	平年並	平年並

病害虫名	発生時期	発生量
コバネイナゴ	—	多



### (3) 肥培管理

- ・ 幼穂の生育が早まっており，主茎数本を抜いて長さを確認し肥培管理に努める。  
(減数分裂期 3~12cm)
- ・ 穂揃期の葉色を33~35ポイント (ひとめぼれ) で推移させること。
- ・ 高温年には白未熟粒の多発が懸念されるので，下記の図のように期待葉色値を維持すること。



### (4) 直播の状況と管理

- ・ 移植に比較して葉数では0.7枚程度遅れているものの茎数は十分な生育量である。
- ・ 葉色が濃い圃場が見受けられ，ツトムシ等の食害に注意し，幼穂長を見ながら圃場によっては適切な追肥を実施する。

[石巻の例 7/19 現在]

草丈	茎数	m <sup>2</sup> 茎数	主稈葉数 (葉)	葉色	幼穂長 (cm)
75.3	243.7	499.5	11.4	35.6	1.1

## 4 気象予報と対策（仙台管区気象台公表）

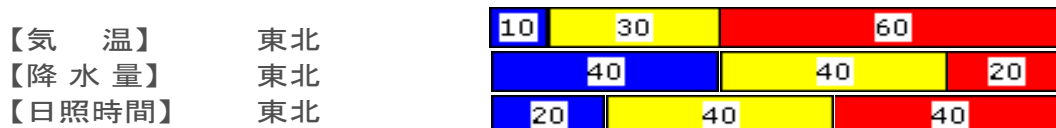
### 【3ヶ月の天候】

- ・ 8月：天気は数日の周期で変わる。気温は、平年並と高い確率とも40%
- ・ 9月：平年に比べ曇りや雨の日が多い。気温・降水量は、平年並と高い確率ともに40%
- ・ 10月：気温は平年並みまたは、高い確率とも40%

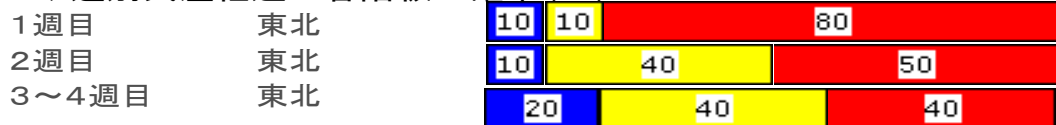
### 【1ヶ月予報】

- ・ 1か月の平均気温は、高い確率60%で、降水量は、平年並または少ない確率とも40%、日照時間は、平年並または多い確率ともに40%である。
- ・ 週別の気温は、1週目の高い確率80%、2週目の高い確率50%、3～4週目の平年並または高い確率ともに40%である。

#### 【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)】



#### ◆週別気温経過の各階級の確率(%)



■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多

1週目 : 7月21日(土)～ 8月20日(月)

2週目 : 7月28日(土)～ 8月 3日(金)

3～4週目 : 8月 4日(土)～ 8月17日(金)

高温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）7月19日：仙台管区気象台発表

要早期警戒（気温）：警戒期間7月24日頃からの約1週間

警戒事項かなりの高温（7日平均地域平年差+ 2.6℃以上）確率30%以上【7月23日解除】



※登熟期間の連続高温（特に前期）で白未熟粒が多発するおそれがある。

□水田の水温・地温を低下させる被害軽減対策をとり、根の活力維持を図る。

①大量の用水が必要であり、関係機関と連絡調整を図り用水の確保に努める。

②昼間はできるだけ深水管理、夜間は逆に落水管理が基本である。

③出穂後に保水管理で維持することで白未熟粒や胴割粒の発生が軽減できる。